

第2期八雲町総合計画 将来像キャッチフレーズ(案)

資料1-1

	キャッチフレーズ	内 容
No.1	自然と人を未来へつなぐ八雲町	<p>八雲町は、太平洋と日本海の二つの海と豊かな自然につながれた日本で唯一の海であります。こうした自然と人のつながりは、本町の基幹産業である農業・漁業の営みにもつながっています。また、このような現在の八雲町の姿は、八雲地域と熊石地域のつながりによって醸成されたものです。</p> <p>これまでのまちづくりによって育まれてきた自然や人の多様なつながりを、未来の八雲町へとつないでいくために、“自然と人を未来へつなぐ八雲町”を本町が10年後に目指すべき将来像とします。</p>
No.2	<p>た 八雲発つ！</p>	<p>町名の由来となった「八雲立つ 出雲八重垣・・・」を引用し、短くインパクトを重視。開拓者から今まで豊かな自然と共存し発展してきた八雲町は、これからも八雲・熊石のそれぞれの歴史を紡ぎ、農業・漁業など更なる“発”展、新幹線開通やエネルギー開“発”など新しい創出を活用し八雲の物産や魅力などを“発”信していくなど、町民が一丸となり町全体が活“発”で笑顔あふれる未来に向かい発つという内容。</p>
No.3	ちょうどいい街(まち) 八雲町	<p>八雲町は、太平洋と日本海の二つの海と豊かな自然につながれた日本で唯一の町であり、買い物の利便性や生活インフラ、医療などの面で、ほぼ都会と同じような暮らしができ、市街地を少し離れると、海・山・川の自然に恵まれ、様々な自然現象や動植物との触れ合いをもたらしてくれます。また、2031年に北海道新幹線新八雲(仮称)駅が開業することで、札幌・函館といった主要都市へのアクセスも大きく向上することが想定されます。</p> <p>こうした八雲町の特性を活かし、自然と都市との最適な距離感を持った、この地域で暮らす住民にとって今まで以上に住みやすい街にしていくため、“ちょうどいい街(まち)”づくりを目指します。</p>